

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 27/Oct/2014/vol.320



晴れの日を彩る マイクロラディッシュと芽蕪 Micro radish & "Mekabu" baby turnip
おめでたいことのある時に、日本では紅白の物を飾ったり食べたりします。それは日本古来の考え方で、紅白は「ハレの日」を表しており、ハレの日とはお祝いや年中行事(お祭り)などが行われる改まった日のこと。その日は神様も含め家族や親しい人々と共に飲食をして喜びや感謝を分かち合う日とされています。大昔から農業国として八百万の神を崇めてきた日本においては、おめでたいことがあるとまずは自然に手を合わせ感謝をしてきました。紅は赤ちゃん、白はこの世を去る時までという意味で、生涯幸せに暮らしますようにとの祈りもあります。そんな気持ちを自然の恵みで表現しようと思った時に、こんなに可愛らしいお野菜があります。紅はもうお馴染みとなった「マイクロラディッシュ」、白は「芽蕪」、どちらも本当に小さい可愛らしい食材です。フレッシュな緑色の葉は生き生きと伸び、その先についているグリンピースほどの大きさの赤や白の珠はまるで宝石の様でもあります。こうして並べると新郎新婦のようでもあり、祝賀を喜ぶ気持ちの表現の様でもあり、お正月や御節句などのおめでたい気持ちを表すのにも最適な演出です。メインのお料理やアミューズなどにちょっとした可愛いサプライズ。加工することなく収穫したそのままの美しい姿の、紅白の大地の恵みを口に運ぶことは、一つのセレモニーにもなり思い出にもなることでしょう。きっとこれからのおわせをもっともっと運んでくれるに違いありません。